



# 麻布幼稚園だより 3月号

令和2年2月28日 港区立麻布幼稚園 園長 藤田 智子

## 『自信をもって出発!』

園長 藤田 智子

いよいよ来週から3月、今年度最後の月になります。

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部の要請に則り、本日、港区教育委員会により幼稚園休園が決定されました。本日の決定により、今年度最後の月となる3月は幼稚園が休園となります。

これまでの段階で、それぞれの子どもたちが自信をもって次のステップに移行できるよう、褒め、認めながら、新たなスタートに向かう子どもたちの気持ちを育ててきたことは、4月からのそれぞれの新しい生活につながっていくことと思います。自信をもって出発できるよう子どもたちを見守っていきます。

一昨日、年長組の子どもたちは、小学校の生活を体験するために、麻布小学校の1年生の教室を訪問しました。1年生の教室では、1人の年長児に対し2~3人の1年生がついて教室の中を案内してくれました。その後、1年生の座席に座らせてもらいお互いに自己紹介をした後、返事の仕方、座り方、鉛筆の持ち方を教えてもらい、学校で使っている学習ノートに文字を書く経験もしました。また、ランドセルに教科書やノートや筆箱を入れて、重さを感じながら背負う経験もさせてもらいました。教室での体験活動の後は、体育館に移動し、これから始まる小学校生活の中で経験するいろいろなことをクイズ形式で教えてもらいました。歌や合奏の披露や、大縄跳びやドッジボールを一緒にする経験もし、とても楽しい時間となりました。最後に、年長組の子どもたちがお礼に歌を歌い、黒田校長先生の見送りを受けながら幼稚園に戻りました。1年生の温かいサポートを受けながら小学校の生活について知る経験をたくさんさせていただきました。4月から始まる小学校生活への期待につながっていくことと思います。

今週行われた2月の誕生会では、年中組の子どもたちが年長児と一緒に初めて司会を行いました。この日に向けて、年中児は年長児に司会の仕方を教えてもらいながら一緒に準備を進めてきました。年長組は教えることの喜びと難しさを感じながら、そして年中組は教えてもらう嬉しさと新しい活動への緊張を感じながら取り組んでいました。年長児のサポートを受けるときどきしながら行った初めての司会は、やり遂げた満足感と、憧れの年長児に少し近付けた喜びを感じる機会となりました。年長組が行ってきた当番活動の引継ぎも、年中児が年長組になる期待と意欲を高めることにつながっています。

年少組の子どもたちは、3学期になって、少しずつ活動の場を広げ、先週は、年長組の子どもたちと一緒に東麻布保育園に遠足に行きました。年長児と年少児の人数の違いから、往きは、もも組ときく組が手をつなぎ、みかん組同士で手をつないだ子どもたちが列の中央に入るようにして歩きました。年長組の子どもたちは、年少組の子どもたちのペースに合わせながらも前を歩く幼児との間があかないように声を掛けリードしていました。年少組の子どもたちは、年長児と一緒に歩くことができる嬉しさを表しながらも、緊張感をもって歩いていました。東麻布保育園では、子ども動物村の行事に参加させていただき、ヤギや犬、ニワトリ、七面鳥、ハツカネズミ、モルモット、ウサギとの触れ合いを楽しみました。帰りはみかん組ときく組が手をつなぎ、もも組を列の中央にして年長学級が前後でサポートしながら歩きました。園に戻った年少組の子どもたちの表情から、動物と触れ合って楽しかった満足感と、大きい組に少し近付いた喜びが感じられました。年長組の子どもたちは、年少児を安全に誘導でき、ほっとした様子でした。

それぞれの学年の子どもたちが進級・進学に向けて経験を積み重ねながら、大きな成長が感じられた2月でした。

保護者の皆様には、今年度たくさんのご協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。また、地域の方々には、本園の教育にご理解いただき子どもたちを温かく見守ってくださりましたこと、そして、惜しみないご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。